

S-style

みやぎで働く! × 宮城の大学生

LOCAL COMPANY LAB

宮城の大学生が気になる企業に突撃訪問。そこで働く人に話を聞きながら、潜入したからこそわかるアレコレをレポートします。

テーマ

工業用の刃物って何?の疑問を調査!

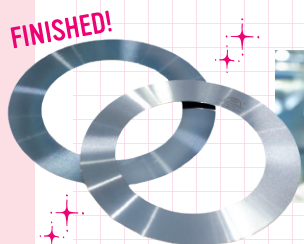
vol.3

東洋刃物
編



今月のレポーター 田中 康貴さん

東北学院大学経済学部2年生。趣味はカラオケで注目しているアーティストはケルティック・ウーマン。



REPORT

普段目にする機会がないものなので、工業用の刃物と聞いてもピンと来ませんでしたが、今回初めて見てその技術力の高さに驚きました。金属からトイレペーパーまで、何を切るのかによってオーダーメイドで対応し、期待値以上のものに仕上げるというお話には、ものづくりを仕事にする皆さんのプロ魂が感じられて感激しました!

経験の差が出る大事な工程です

熱処理工程が超重要!

技術部 高橋さん



東洋刃物

富谷市富谷日渡34-11
022-358-8911

仕事を通じて世の中の役に立っていることを実感できる職場です。休暇や福利厚生が充実しているのも自慢です!



企業情報&採用情報はこちらです

管理部人事課 小島さん

の世界は奥が深かったです!

「東洋刃物」は、工業用機械刃物を製造する会社です。大正14年に東北帝国大学の本多光太郎博士の「海外産に負けない高品質な国内産刃物をつくらう」という提唱により創立されたそう、硬派な社名なのもなんだか納得です。主力製品は、スマホ用の部品等を切断する高精度の情報産業用刃物。ほかにも高張力鋼板からトイレペーパーまで、さまざまなものをカットするための刃物を製造しています。今回は、スリッターナイフと呼ばれる円盤型カッターの製造現場に潜入です!

大まかな工程は、材料の切断・成形、硬度を高める熱処理、刃付けと仕上げを行う研削。技術部の高橋さん曰く、「熱処理の際には材料が歪んだり伸びたりしますが、うまく制御するには長年の経験が役立ちます」。なるほど、高品質なものづくりには人の力も重要なんですね。あまり一般の人の目には触れない工業用刃物の世界は奥が深かったです!

工業用の刃物は世の中のあらゆるものを「切る」縁の下の力持ちでした!

S-style

みやぎで働く!

は、若者からシニアまで「宮城で働く、働きたい」すべての方へ発信するキュレーション・メディア。地元企業の情報も公開中。

